
トンチ3

メロ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

トンチ3

【著者名】

ZZマーク

ZZ384ZZ

【作者略名】

メロ

【あらすじ】

ドブ山さんはトンチが得意で、いろんな事件を解決するよーあと、蹴りが得意だよ。

ある日、ドブ山さんが町をいつものように裸に近い格好で歩いていると叫び声が聞こえました。

「ドロボー！」

声のする方に地面を舐めながら全力疾走で行つてみると、一人の男が取り押さえられていきました。

その男はドブ山さんに気がついて言いました。

「ドブ山さんトンチで助けてください」

ドブ山さんは有名人なのだ。

なぜなら、ドブ山さんはトンチで事件を解決したりするからだ。あと裸に近い格好だから。

「ふむう、わかった！おまえの顔を思いつきり蹴飛ばせばいいのだな」

ドブ山さんはパンチより、蹴りが得意だよ。

「えっ！？なんでそういう結論がでちゃってるの！？」

「オラア、無駄話するんじゃねえ警察いくぞ」

男を取り押さえていた、怖い顔の人人が言った。

「ドブ山さん。トンチでなんとかしてよ」のオッサン

「しょうがないな。まあ、話を聞こうか・・・俺の」

ドブ山さんは、自分の話を自分に話して笑った。

これが、傑作なんだよね。

「よし！では、俺はもう行くぞ」

「待つて！イヤ、もう全然わかぬよー」ドブ山さん、俺の話を聞いてよ！」

「おまえの話を聞く・・・俺の話じゃなくて？」

ドブ山さんは、また自分の話を自分に話して泣いた・・・その涙は世界有数の大河である、インダス河の水源を彷彿とさせた。

「よし！では、俺は行くぞ」

「待てーーーおねがいだから俺の話しさ聞いてください」

「話さなくてもすべてわかる・・・俺のことが」

「ドブ山さんは自分のことが客観的に見れる。」

「それは自分自身のことだからね・・・それはどうでもいいから!」

「俺の話を聞いてくださいよ」

「よし、話せ・・・俺についてねほりはほりは

人のことには興味がない。

「え!? なんだ、ドブ山さんのことねほりはほりは話せなきゃいけないの!」

「嫌なら、俺はもう行くぞ」

「ドブ山さんが帰りかけたとき。

「面倒くせえから俺が説明してやるよ」

「話がまったく進まないために、怖い顔の人�이イライラして言った。

「おまえが説明してくれるのか? 俺じゃなくて?」

「お前に説明できないだろ!?!?」

「いや、できるよ。説明。直線的な心が東の門を守るわけですが、
38口マンが 82×12 倍で終わっていく時にちょうど魂の玉が落ちて鐘を鳴らすんだよね。五つの太陽が永遠性からのメカニズムと宇宙の果てをポップアートでスフィンクスステレックス。無限の時間を表す姿はブリーフ。支配を表す時間はトランクス。ブリーフとトランクスはつねに俺を消滅させる傾向にある」

「ドブ山さんは何かの説明をした。

「なんの説明だよ!?!?」

「なんでもかんでも人に聞くな! 少しは自分で考えろ!」

自分で考える力が無い奴は困るね。

「・・・イヤ、もういい。俺の説明を聞け! そこの野郎は、俺の文房具の店「しかめっ面」から消しゴムを万引きして逃げた! だから俺はこいつを追いかけて、なおかつ取り押さえた! これがすべてだ」「本当か! おまえ、本当にそんなことしたのか? アレじゃないのか、別の人格がやつたんじゃないのか?」

別人格なら、話は変わつてくれる。

「つい出来心なんです」

「ふむう、ではこうしよう。まず、盗んだお前は盗んだ記憶を捨てる。そして盗まれた店主は盗まれた記憶を捨てる。そして俺は、今あつたことを忘れる。これぞ三方一両損」

男は消しゴムをオッサンにぶつけて返しました。

「助かりましたドブ山さん」

見事なトンチさばき。

でも、なぜかオッサンはまったく感謝してくれませんでした。

「ふむう。どうやら、このオッサン！記憶が自分では消せないようだ！こうなつたら強制的に消すしかないようだな！この鈍器のよつなもので強制的に記憶を消すのだ」

ドブ山さんは男に鈍器のような物を渡しました・・・。

そこへ。

「なんなの、何もめてるの？」

警察の人がきたので、ドブ山さんは正義の心で万引き犯を引き渡しました。

悪いことはダメだぜ。

トンチで今日も事件を一つ解決したドブ山さんはみんなのヒーローだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7384n/>

トンチ3

2010年10月10日17時46分発行